

## 令和6(2024)年度 入学式式辞

駒場東邦中学校第71回生諸君、ご入学おめでとうございます。

今年の桜花は、年々開花時期が早まってきていたなか思いのほか足踏みをして、まさにいま、見頃となり、君たちの入学を共に祝っているかのようです。この佳き日、澁刺とした君たちを新入生として本校に迎えることは、教職員および在校生一同にとって、これ以上ない喜びとするものです。私たちは、71回生諸君を、心より歓迎いたします。

また、ご父母ご家族の皆さまにおかれましては、お喜びも一入のことと拝察いたします。長く続いたコロナ禍においては、何かと制限を設けたうえでの開催にせざるを得ませんでした。本日は、皆さまよりご理解を賜り、こうして同じ会場で、ご息がたが大切な節目を迎えられた喜びを分かち合うことができている。改めて、大変意義深いことと感じております。皆さまのご協力に厚く御礼を申し上げるとともに、重ねて心よりのお祝いを申し上げます。

さて、新入生諸君、君たちは厳しい入学試験を勝ち抜いて、本日この入学式を迎えることができました。今は、誇らしい思いで満たされていることと思います。そして、これから君たちが過ごしていく充実した日々思いを馳せ、期待に胸膨らませているのではないのでしょうか。君たちは、コロナ禍の厳しい制限のなかで受験勉強に取り組んできたわけですから、そこには様々なストレスもあったことでしょう。それらに打ち克って目標を達成したことは、とても自信になるものだと思います。また一方で、難しい状況下でも変わらずに君たちを支えてくれたご家族への感謝を、強く感じていることでしょう。いずれもとても大事なことですが、ここで注目してほしいのは、いま君たちが期待とともに感じているであろうところの、緊張感です。

私たちは、新しい世界に初めて足を踏み入れるときに、いくらかの緊張を感じるものです。昨日まで日常を構成していた場所を離れて、未知の領域に入ってゆくのです。それが、自分自身の選択によるものであり、これから自分の身に起こることに大きな期待を抱いているにせよ、この先しばらくは、日常の何気ない場面において、予期に反する出来事が数多く起こるでしょうし、その際、自分は果たして戸惑わずに行動することができるか、と考えたとき、どうしても不安や恐れを感じてしまうものです。その恐れこそが、いま、君たちの心に緊張感を生じさせているものであると考えます。いかがでしょうか。自分の心の内をよく観察してみてください。そうすると、いま述べた恐れとともに、それに向き合って、意志の力で乗り越えていこうと心に決めている君たち自身の姿が見えてくるのではないのでしょうか。この、恐れを乗り越えていこうとする勇気を、しっかり心に刻んでいただきたいと思います。「初心忘るべからず」といいますが、君たちに忘れずに持ち続けてもらいたいのは、この勇気です。

このことは、実は、駒場東邦が生徒諸君に培ってほしいものとして、創立以来大事にしている二つの柱に直結するものです。すなわち、「自主独立の気概」と「科学的精神」です。いま述べた勇気は、恐れとともに心に生じるものですから、そこには、恐れるがゆえの謙虚さ、誠実さが生じてきます。この謙虚さ、誠実さがあるからこそ、世界のあらゆる現象は、ありのままの姿を見せてくれるのであり、私たちはそれをそのまま感受することができるのです。

元日に起こった能登半島地震には、本当に驚かされましたし、先日の台湾の大地震にも、時をおかずに起き

たことであるがゆえに、私たちは大いに心を痛めています。私たちには、被災された皆さんを支えて、一日も早い復興を実現することが課せられているわけですが、そのために必要とされるのが、ここで述べている謙虚さ、誠実さであるということは、言うまでもありません。その恐ろしさを感じるがゆえに、私たちは、謙虚さ、誠実さをもって、自然と向き合うことができるのであり、自然の、ひいては世界のありのままの姿を見ることができるのです。逆に、それがなければ、私たちはこの世界で生きてゆくにあたっての指針を、失うことになるのだと考えます。つまり、この謙虚さ、誠実さは、自分自身の感受性をもって現象と向き合うことで初めて得られるものであり、現象をありのままに感受したうえで、自分の頭で考え、自分の言葉で論理的、体系的に表現していこうとする意志に裏付けられているのです。この、自分自身の感受性や自らが組み立てる論理をもって世界に対峙しようという意志が「自主独立の気概」なのであって、それをもとに、自然現象や社会現象をありのままに捉えていこうという姿勢が「科学的精神」なのです。

また、謙虚さ、誠実さは、自らの失敗を深く受け入れることにもつながります。失敗するのは怖いものです。そして、学びの道行きは長く、行く先が明確でないなかを進まねばならないので、その不安感によって、私たちはつい出来合いの正解に連れて行ってくれる方法を安易に求めてしまいがちです。しかし、君たちのような若い学習者に求められるのは、そのような借り物の方法ではなく、先に述べた勇気をもって自分を奮い立たせ、失敗を厭わずに学ぶ意志をもつことに他ならないのです。失敗こそが、君たちに多くを学ばせるのであり、同時に、他者に対する寛容の姿勢を心に生じさせるものであると考えます。つまり、多様性に満ちた現代の世界において、価値観の違う他者と向き合ううえでも、この謙虚さ、誠実さが必須のものであると言えるのです。そしてその行く末には、かけがえのない“ひとり”として、他者との深い共感に裏付けられた関係性を築き、世界の平和に貢献していく君たちの姿が見えてくるのです。

さて、71 回生諸君は、これからまさに多感な青春時代を過ごしていくことになります。思うに青春とは、その明るくエネルギッシュなイメージとは違って、実は、悩み多き停滞の季節です。どうぞ大いに悩んでください。君たちが、真正面からその悩みを受け止めつつ、意志をもって学ぼうとする限り、我々はどこん付き合っています。そして、君たちがこの駒場東邦で、失敗を厭わずに思う存分活躍するのを、大いに楽しみにしています。

この期待の念を、本日ここにご列席くださったご父母、ご家族の皆さまと共有して、本日の式辞といたします。

令和6(2024)年4月8日

駒場東邦中学校・高等学校

校長 小家 一彦